

よぬだ とらどころ



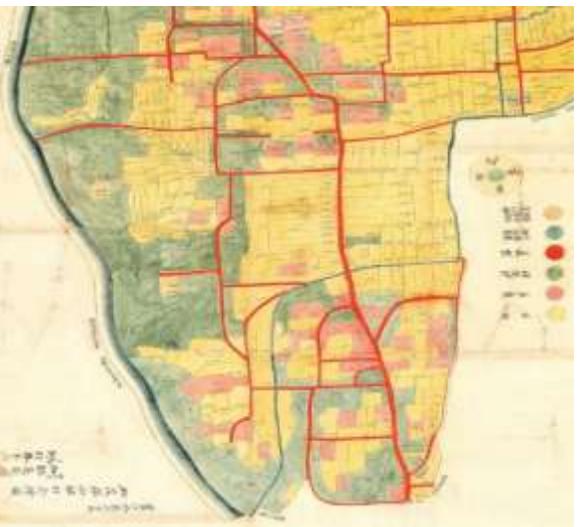
第十八号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

深渡のハネ坂異聞

前号の続き 毛利勘右衛門は虐待をしたか

一般的に支配者である権力者と被支配者の関係で問題となる圧政は、そのほとんどが税金に関わることである。このような虐待を本当に実行させたならば、その権力者は狂人である場合が多いのではないだろうか。毛利勘右衛門が狂人であったという説はないので、多分毛利を攻め落とした肥田側のプロパガンダであったと推定される。滅ぼされた毛利一統を肥田が極悪非道の輩とすることで、その後の支配がうまくできるように配慮したものである公算が強い。この肥田も後に金山城主の森長可に滅ぼされるが、地元では肥田玄蕃の悪口を現在言う人は少ないことから肥田氏はそれなりの善政をおこなったのではないかと思われる。上地図は、明治初期の地籍 青線は深渡川



《「ハネザカ」の地名》

発音からして「ハネ」と「ザカ」に分けることができる。「ザカ」は「坂」と考えられるので、「ハネ」について検討してみる。

川辺福島の飯田川の段丘に登る場所を「羽根坂」という漢字で当てて呼称している。深渡の場合は、当てられた漢字はよくわからないが、両者に共通するのは河岸から段丘面上上がる坂道である。地名の語源によれば、「ハネ」は粘土地を指す。従って、粘土の露出した傾斜のある土地という意味を持つ。

《「ハイザカ」異聞》

一説によれば、毛利勘右衛門の一統の支配下で、川湊から段丘上に物資を揚げるために、人力を利用したという。重い荷物を背負い、斜面を這い上がるという意味で「這う(はう)」という言葉が、「ハイ」という言葉に変化し、「ハイザカ」と呼んだという説である。

当時の状況として、このようなことが実際におこなわれたということは想定できる。物資運搬労役を地元の農民に強制したということを以て、毛利勘右衛門を極悪非道の支配者とし、弱い女性を使役し、ひどい扱いをしたということに置き換えたものではないかとも推察される。

*注 毛利勘右衛門の悪行は妊婦の腹を切り裂いたとか、農民に川(飛驒川)を泳がせ、それを矢で射殺したとかいわれる。

このようなことは中国の歴史書の中の残酷な刑罰の例にもある。